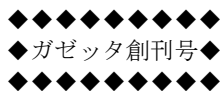


メールマガジン「ガゼッタ」まとめ(1)

創刊号～第5号(2012年9月7日～10月3日配信)

配信した「ガゼッタ」No.1-5のまとめです。書式と一部表記を変更して図版を取り込み、pdfにしました。



▼ガゼッタ創刊のご挨拶▼

日本ロッシーニ協会HPのリニューアルに伴い、「ガゼッタ」と題したメールマガジンを発行することになりました。筆者は情報発信が苦手ですが、HP管理人の協力を得て、週1回を目安にロッシーニ・ファン向けの最新情報や豆知識を提供すべく努力しますので、気長にお付き合いいただければ幸いです。ジャーナリスティックな話題とは別に専門的な話も織り交ぜ、幅広い視野で発信していきますので、なにとぞよろしくお願いいたします。

▼ピッツォラート来日リサイタル速報▼

ロッシーニ歌手として活躍するメッソソプラノ、マリアナ・ピッツォラートが東京プロムジカの招聘で来日リサイタルを開きます。期日は2013年3月4日(月)、会場は紀尾井ホールです。

藤原歌劇団《タンクレーディ》(2010年6月)の来日をご記憶の方も多いと思いますが、近年成長いちじるしい(…いろんな意味で…)の新たなディーヴァで、芳醇な低声と強弱法を駆使した陰影豊かな歌唱により、歌曲や宗教曲の分野でも高い評価を受けています。日本ロッシーニ協会の後援につき、会員向けチケット割引も実施します。詳細と申し込み方法は、近日中に発送する『ロッシーニ通信』でお知らせします。筆者によるチラシ裏面の文章と演奏曲目は、主催・東京プロムジカのHPをご覧ください。

http://www.tokyopromusica.jp/concert/concert_20130304.html

(2012年9月7日 水谷彰良)

★新HP管理人より★

新しいHPはいかがですか?まだ準備中のページもありご迷惑をおかけして申し訳ございません。ウェブのプロではありませんので、デザイン的にできないことも多々ありますが、情報が届き次第速やかにHPに掲載するよう努めますのでよろしくお願いいたします。また、メルマガの名称は、ロッシーニのオペラでもおなじみの《新聞》＝「ガゼッタ」以外に考えられませんでした。こちらもよろしくお願いいたします。

さて、管理人の目に留まった海外でのこれからのロッシーニの公演情報です。詳細はパソコンからそれぞれの劇場のサイトで確認してみてください。

☆11月～12月,来年2月～3月:パリ・ガルニエ

http://www.operadeparis.fr/en/saison_2012_2013/operas/la-cenerentola-rossini/detail/ 「ラ・チェネレントラ」
ミロノフ/シラグーザ、ピッツォラート/マルフィ、デ・シモーネ/アライモ他

☆来年1月末～:ウィーン

http://www.wiener-staatsoper.at/Content.Node/suche/suche_detailansicht.de.php?eventid=1024381&month=01&year=2013&mode=current 「ラ・チェネレントラ」コルチャク他

☆来年1月末～2月:アムステルダムのネーデルラント・オペラ

<http://www.dno.nl/index.php?m=performances&sm=season&s=367> 「ギヨーム・テル」、アライモ、オズボーン、スポッティ、レベカ他

☆来年2月:アン・デア・ヴィーン <http://www.theater-wien.at/index.php/en/programme/production/100146> 「オリー伯爵」、ブラウンリー、バルトリ他



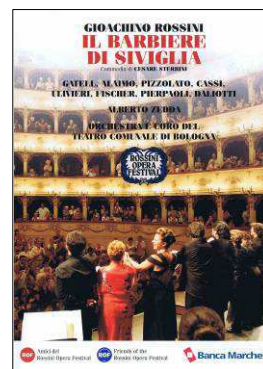
ガゼッタ第2号をお届けします。

本号では、今年8月にROFで発売された2011年の演奏会形式《セビーリヤの理髪師》DVDを紹介し

▼ROF2011 演奏会形式《セビーリヤの理髪師》DVD 発売! ▼

©Rossini: Il barbiere di Siviglia. Registrasione dal vivo effettuata al Teatro Rossini di Pesaro il 22 agosto 2011. (Esecuzione in forma di concerto)

Il Conte d'Almaviva ... Juan Francisco Gatell
Rosina ... Marianna Pizzolato
Figaro ... Mario Cassi
Bartolo ... Nicola Alaimo
Basilio ... Nicola Ulivieri
Berta ... Jeannette Fischer
Lisa ... Francesca Pierpaoli
Fiorello / Un Ufficiale ... Clemente Antonio Daliotti
Ambrogio...N.N.
Direttore ... Alberto Zedda
Orchestra e Coro del Teatro Comunale di Bologna
Maestro del Coro ... Lorenzo Fratini
〈収録：2011年8月22日ペーザロ、ロッシーニ劇場〉
[Rossini Opera Festival (製品番号なし) DVD2 枚組、PAL 仕様]



昨年 ROF の終盤、8 月 22 日に行われた演奏会形式《セビーリヤの理髪師》をライブ収録した 2 枚組 DVD です。今年 8 月 ROF のショップで販売され、価格は 10 ユーロと格安です。ROF 自主レーベルのため製品番号がなく、市場での販売も現時点では想定していません。

指揮者アルベルト・ゼッダの校訂による全集版（批判校訂版）を使用し、若い歌手を中心にした演奏会形式の上演で譜面台を置かず、適宜演技をしながらの出入りと歌唱です。歌手は、見るからに若くて声楽的にもこれから、といった感じの伯爵役フアン・フランシスコ・ガテルとフィガロ役マリオ・カッシ、安定した歌と表現ながら横綱級の体型でも圧倒的存在感のロジーナ役マリアンナ・ピッツォラートとバルトロ役ニコラ・アライモが見どころ聴きどころで、バジーリオ役のニコラ・ウリヴィエリなど脇役も充実しています。

なにより素晴らしいのがゼッダ先生の指揮と、そこから流れ出る躍動感あふれる音楽です。映像はきちんと編集されていますがハイビジョンに慣れている者には画像が粗く、色目も悪く、音響面もいま一つ。DVD2 枚組で 10 ユーロ（購入時のレートで 980 円！）と格安なのでその辺は我慢しましょう。

(2012年9月12日 水谷彰良)

■お知らせ■

■日本ロッシーニ協会定期演奏会 2012 オペラ《セミラーミデ》抜粋
2012年11月26日（月）18：30 開演 チケット一般発売中！
詳細は <http://societarossiniana.jp/concert.html> にて

■日本ロッシーニ協会 リニューアル例会： 9月17日（月・祝）13：30～
北沢タウンホール 3F ミーティングルームにて
会員の方も、会員でない方も、ぜひご参加ください！
詳細は <http://societarossiniana.jp/meeting.html>

■メルマガ「ガゼッタ」創刊号を逃した方は、gazzetta@societarossiniana.jp へ件名を創刊号希望と記入し、メールを送信してください。創刊号が自動送信されます。件名を空欄のままでも受信可能な方もいらっしゃいますが、件名が空欄ですと迷惑メール扱いとなり受信できない場合もあります。

■HP管理人より■

国内のロッシーニの公演のチケット、購入はお済ですか？

☆朝岡聡のオペラは恋の処方箋 vol.3 何はなくともロッシーニ
(10月24、25日 銀座ヤマハホール)

http://www.yamaha.co.jp/yamahaginza/hall/eventdetail_6923.html

☆新国立劇場オペラパレス《セビリアの理髪師》11月28日～12月9日
http://www.nntt.iac.go.jp/opera/20000610_opera.html

☆東フィル 定期シリーズ 《小荘厳ミサ曲》

1月17日（オペラシティコンサートホール）

1月18日（サントリーホール大ホール）

<http://www.tpo.or.jp/concert/detail-2247.html> エッティンガー指揮

★管理人の目に留まった海外でのこれからのロッシーニの公演情報第2弾です。
詳細はパソコンからそれぞれの劇場のサイトで確認してみてください。

☆2010年のパリ・ガルニエと2011年のミラノ・スカラでの《湖の女》（ディドナート、フローレス他）を見逃した方、3回目の上演、ロンドン公演が5月17日から6月11日にかけてあります。

<http://www.roh.org.uk/productions/la-donna-del-lago-by-john-fulljames>

チケットの一般発売は来年1月15日から。

アメリカ国内

☆来年1月17日～2月5日：メトロポリタン・オペラ 《オリー伯爵》

<http://www.metoperafamily.org/opera/comte-ory-rossini-tickets.aspx>

マチャイゼ、フローレス他

☆来年4月：ニューヨーク・シティ・オペラ 《エジプトのモゼ》

<http://www.nycopera.com/seasontickets/>



ガゼッタ第3号をお届けします。本号では、今月新譜の2009年ロッシーニ・オペラ・フェスティバル《ゼルミーラ》上演映像(DVD&BD)を紹介します。

▼ROF2009年《ゼルミーラ》DVD&BD発売!▼

◎Rossini: Zelmira.(Rossini Opera Festival 2009)

ロッシーニ：歌劇《ゼルミーラ》2009年ロッシーニ・オペラ・フェスティバル(1826年パリ改訂版)

ジョルジョ・バルベリーオ・コルセッティ(演出)、ロベルト・アッパード(指揮)、

ボローニャ市立劇場管弦楽団&合唱団

主な配役

アレックス・エスポージト(ポリドーロ、バス)

ケート・オールドリッチ(ゼルミーラ、ソプラノ)

ファン・ディエゴ・フローレス(イーロ、テノール)

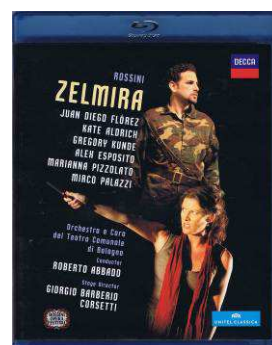
グレゴリー・クンデ(アンテーノレ、テノール)

マリアンナ・ピッツォラート(エンマ、メゾソプラノ)

ミルコ・パラッツィ(レウチッポ、バス)

(収録：2009年8月ペーザロ、アドリアティック・アリーナ)

[Decca 0743465](DVD2枚組) [Decca 0743466](BD)



2009年ROF《ゼルミーラ》の上演映像がDVDとBD(ブルーレイディスク)で発売されました。コルセッティ演出の舞台は二層構造で、床下に地下牢を設け、背後の斜めの鏡に地下の様子を映し出すというもの。全体に暗く、血なまぐさい残酷な光景を見せる演出に賛否両論でした。歌手は登場のカヴァティーナでハイDを連発する絶好調のフローレス、力強い発声で存在感も抜群のクンデとピッツォラート、大健闘のオールドリッチとみな素晴らしく、R・アッパード指揮のオケと共に円熟期のロッシーニ作品を満喫させてくれます。

ROFの《ゼルミーラ》はデヴィア主演の1995年が唯一で、14年ぶりとなる2009年の上演では1826年パリのイタリア劇場改訂版を用いています。初演版との歴然たる違いは第2幕フィナーレにあり、パリ版では五重唱(N.10)の後のレチタティーヴォを変更し、ゼルミーラのアリアを与え(N.10bis.《エルミオーネ》)グラン・シェーナのカバレッタ転用を含む)、さらにオリジナルのアリア・フィナーレ(N.11)のゼルミーラの旋律をイーロとポリドーロに振り分ける改作をロッシーニ自身が行っています。

以下、簡略作品解説、登場人物、あらすじを記しておきますので、鑑賞の参考にしてください。

■簡略作品解説

2幕のドランマ・ペル・ムジカ《ゼルミーラ Zelmira》は、ロッシーニがナポリで初演した最後のオペラで、続く《セミラミデ》を持ってイタリアで活動に終止符を打ちました。台本は、アンドレア・レオーネ・トットラ(Andrea Leone Tottola,1765-1831頃)がドルモン・ド・ブロワ(Dormont De Belloy,1727-1775)のフランス語による悲劇『ゼルミール Zelmire』(1762年)に基づいて作成し、1822年2月16日、ナポリのサン・カルロ劇場で行われた初演も大成功を収めました。

■登場人物

ポリドーロ Polidoro (バス)レスボスの王

ゼルミーラ Zelmira (ソプラノ)ポリドーロの娘

イーロ Ilo (テノール)トロイアの王子。ゼルミーラの夫

アンテーノレ Antenore (テノール)ミティレーネの王子。レスボスの王座を熱望する。

エンマ Emma (コントラルト)ゼルミーラの友人

レウチッポ Leucippo (バス)アンテーノレの腹心

エアーチデ Eacide (テノール)イーロの腹心

がありません（面白いかどうかは別問題ですが…）。個々の曲目解説は当日のプログラムをご覧ください。なお、リサイタルの詳細は東京プロムジカサイトでご確認ください。<http://www.tokyopromusica.jp/>

◎演奏曲目

ゴルディジャーニ《トスカーナ民衆歌集》より“ちょっとご覧”“我田引水 [誰もが自分の水車に水を引く]”“黒さくらんぼと洋梨”“どうか煩わさないで [眠れる犬はそのままに]”“トスカーナの女”

L.Gordigiani : «Canti popolari toscani» ~ “Guardate un po’” “Ognuno tira l’acqua al suo mulino”
“Ciliegie nere e pere moscatelle” “Lascia stare il can che dorme” “La donna di Toscana”

ロッシーニ《音楽の夜会》より“アルプスの羊飼いの娘”“別れ”

G.Rossini : «Les soirées musicales» ~ “La pastorella dell’Alpi” “La partenza”

ロッシーニ《老いの過ち》より“黙って嘆こう”“フィレンツェの花売り娘”

G.Rossini : «Péchés de vieillesse» ~ “Mi lagnerò tacendo” “La fioraja fiorentina”

ロッシーニ《音楽の夜会》より“ゴンドラに乗って”“踊り”

G.Rossini : «Les soirées musicales» ~ “La gita in gondola” “La danza”

ロッシーニ《老いの過ち》より“さらば人生よ”

G.Rossini : «Péchés de vieillesse» ~ “Adieux à la vie!”

ドニゼッティ：歌劇《バトリ、またはスイスの山小屋》より“この飾らず質素な隠れ家”

G.Donizetti : «Betly, ossia La capanna svizzera» ~ “In questo semplice, modesto asilo”

ロッシーニ：歌劇《なりゆき泥棒》より“そのときが近づく”

G.Rossini : «L’occasione fa il ladro» ~ “Vicino il momento”

ドニゼッティ：歌劇《リータ、またはふたれた亭主》より“清潔でお洒落ね、この愛らしい宿屋は”

G.Donizetti : «Rita, ou Le mari battu» ~ “È lindo e civettin questo caro alberguccio”

ドニゼッティ：歌劇《シャモニーのリンダ》より“この心の光”

G.Donizetti : «Linda di Chamounix» ~ “O luce di quest’anima”

ドニゼッティ：歌劇《連隊の娘》より“みながご存知”

G. Donizetti : «La fille du régiment» ~ “Chacun le sait”

(2012年9月22日 水谷彰良)



◆ガゼッタ第4号◆

ガゼッタ第4号をお届けします。本号では、ロッシーニ財団が刊行した《小ミサ・ソレムニス》自筆楽譜ファクシミリ（限定300部）を紹介します。

▼ロッシーニ《小ミサ・ソレムニス》自筆楽譜ファクシミリ発売！▼

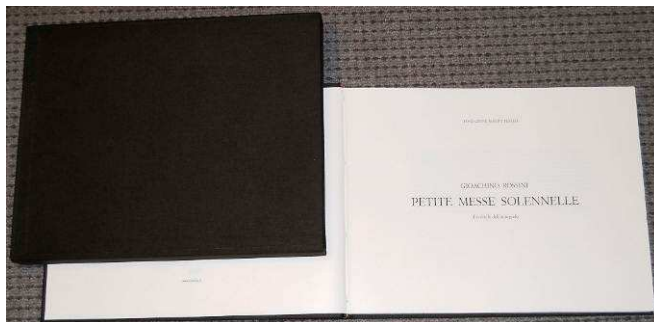
◎Rossini: Petite Messe solennelle. (Facsimile del manoscritto., Fondazione G. Rossini)

ロッシーニ《小ミサ・ソレムニス》（自筆楽譜ファクシミリ版、ロッシーニ財団）

今夏ペーザロを訪れ、全集版の新刊が無いのを残念に思った筆者に、思いがけない朗報が飛び込みました。それがロッシーニ財団による《小ミサ・ソレムニス》（1863年。2台ピアノとハルモニウム伴奏版）の自筆楽譜ファクシミリ版の出版です。ロッシーニ財団による自筆楽譜ファクシミリ版はこれが初、でも価格300ユーロ（約3万円）はちと高いのでは、と二の足を踏んでいたなら、居合わせたドイツ・ロッシーニ協会の事務局長レート・ミュラーから、「限定300部、買わないと後悔するぞ！」と言われました。もちろん即購入を決断。

現物は37.5×29.5 cmのフォリオ版で、全集版と同じこげ茶色の布装ですが、同じ布装の外箱に収納されています（図版参照）。内容は2頁分の簡単な解

説と約130頁の楽譜複製で、詳しい解説や校訂ノートは後日出版される全集版に譲るとのことでした。正式には「310部限定コピー」とうたわれていますが、最初の10部（ナンバーI～X）は財団と関係者用なので、市販は1～300の番号を振った300部限定コピーとなります。



ッシーニ」(ロッシーニ風フィレスステーキ)もフレンチのシェフ・井上旭さんによって見事に調理され、150グラムのフィレ肉にフォアグラとトリュフをふんだんに使い、なんとも美味しそうでした。続いて晩年のロッシーニならではの風変わりな題名のピアノ曲《ロマンティックなひき肉》を、加羽沢美濃さんが演奏しました。司会の石田衣良さんがロッシーニの奇抜な着想を絶賛してくれたのが嬉しかったです。最後に「取材協力」として、加藤浩子さんとぼくの名前が出ていました。番組詳細はこちらをご覧ください。

<https://pid.nhk.or.jp/pid04/ProgramIntro/Show.do?pkv=001-20120923-31-08148>

「ららら♪クラシック」を観て思い出したのが、2011年12月、表参道に再上陸したハンバーガー・チェーン「ウェンディーズ」です。目玉のジャパンプレミアム新商品「フォアグラ・ロッシーニ」はテレビ・ニュースでも報じられたので、ご存知の方も多いでしょう。値段はメニューで一番高い1,280円。一度食べたいと思いつつそのままになっていたのが、六本木店まで買いに行きました。で、意気揚々と「フォアグラ・ロッシーニ！」と注文して待つと「フォアグラ・バーガーお待ちのお客さま～」の声。それってぼく？……そうなんです。この一言がすべてを語っていました。メニューの名称はフォアグラ・ロッシーニでも、お店にとっては単にフォアグラ・バーガーなんですね……当たり前ですが。



ウェンディーズのサイトの写真は[こちら](http://wendys.co.jp/wendys/view/s.php?a=115#menu01)。ぼくの写した写真とは印象がずいぶん違いますね(笑)。

フォアグラはソテーではなくテリーヌ。意外に大きいのが3つ、ビーフパティに乗っています。味は濃厚かつ本格的と思って調べたら、トリュフ・ソースとマデイラ・ソースも使っているとのこと。パティの下には薄い輪切りの玉葱と香草も。要するに調味したフォアグラのテリーヌを乗せたハンバーガーなのです。とはいえお昼にいただいた筆者はそれなりに満足しました。

そこで思い出したのが、ファミリーレストラン「デニーズ」で毎年冬の限定特別メニューとされる「牛フィレ肉のロッシーニ風」です。最初に登場したのは10年ほど前でしょうか。そのときは「三大珍味」というふれこみでキャヴィアも使われていましたが、食べに行くと教えた8粒しか乗っていません。そもそもキャヴィアはロッシーニ風に不要な素材、なんだかなあ……と思っていたら、ここ数年は「フォアグラと牛フィレ肉のロッシーニ風」と名称が変わり、より本格的になりました。今年も「冬のとおき。スペシャルメニュー」として登場するようです。価格は1,480円。デニーズのサイトに載っていました。説明文と共にご覧ください。

<http://www.dennys.jp/dny/menu/dennys/meat/meat-101202-005.html>

こう書くと、「水谷はファミレスでロッシーニ風を食べている」と言われそうですね。だてに『ロッシーニと料理』の著者ではないので、20年以上前からヨーロッパや国内の高級フレンチで何度も食べています。筆者の協力でホテルがロッシーニ料理フェアを開催し、海外取材した本格的なTV番組も作られました。その話をすると長くなるので、今回はウェンディーズとデニーズにとどめましょう。



オマケとしてイタリアのカネッラ社(Canella)のカクテル=アペリティーヴォ「Rossini」にもふれておきます。同社は何10年も前からカクテル「Rossini」を発売していましたが、数年前に新鮮なイチゴのピューレをスパマンテに加えた発泡カクテルを新製品として発売しました。名称が同じなので紛らわしいですが、イチゴの発泡カクテルは750ml、従来のカクテルは200mlなので間違えることもないでしょう。アルコール度数はどちらも5%です。

カネッラ社のサイトでの紹介は<http://www.canellaspa.it/index.php/rossini-cl-75?lang=en>

楽天市場での紹介は<http://item.rakuten.co.jp/wine/c/0000000946/>をご覧ください。白桃のピューレとスパマンテを使った発泡カクテル「ベリーニ」の説明も載っています。

飲んで美味しいかって？……ぼくはセッコが好きなので、甘めのカクテルは苦手です。一度飲んだだけで、どちらも未開封のボトルをロッシーニ・コレクションに加えました。

こういうのは全部「話のタネ」でありまして、そのためには実際に食べ、飲まないと話にならないのです。でもロッシーニ・ファンなら、試さずにはられませんね。

(2012年10月3日 水谷彰良)

★★★★★HP 管理人の今週の注目は？★★★★★

今年のROFの《ブルスキーノ氏》でソフィア役を歌い、会場からブーイングが出たキューバ出身のソプラノ、マリア・アレイダ(昨年のROF若者公演の《ランスへの旅》ではフォルヴィル伯爵夫人)。ROFのアーティストの経歴を載せた冊子には、今後の予定として武蔵野でのコンサートが書かれていました。そのコンサート、12月20日(木)、午後7時より武蔵野市民文化会館小ホールで行われます。カバリエとフレーニの愛弟子、超絶技巧のコラトウラとクリスマス・ソングの夜とのこと。

チケット予約開始は10月4日(木)。詳細は、武蔵野文化事業団のサイトをご覧ください。

<http://musashino-culture.or.jp>